

明るい院内 掛川・袋井一望

中東遠地域で初めて導入された陽電子放射断層撮影装置。がんの早期発見などに威力を発揮する。いずれも掛川市で



23、24日に内覧会

袋井市は二十三、二十四両日に開かれる中東遠総合医療センター内覧会に合わせ、二十四日のみ、市内三カ所を発着する無料シャトルバスを運行する。市役所、浅羽支所、月見の里学遊館とセンターを結ぶ直行の往復各七便。六歳未満は乗車できない。満員の場合は次の便に乗車する。問い合わせは市民

袋井市が24日に無料バス運行

病院管理課 電0538(43) 25111へ。運行時刻は三カ所同じで次の通り。センター行きは往路午前九時半、十時十五分、十一時、午後の零時半、一時十五分、二時、二時四十五分、センターの復路 午前は十一時、十一時四十五分、午後は一時十五分、二時、二時四十五分、三時半、四時十五分

中東遠総合医療センター

掛川と袋井両市立病院を統合し、五月一日に開院する「中東遠総合医療センター」（掛川市葛蒲ヶ池）で十九日、地元の記事クラブ向けの見学会があった。二十一日に完成式があり、準備は最終段階に入った。市民の内覧会が二十三、二十四両日に行われるのを前に、その様子を紹介する。



5月1日に開院する中東遠総合医療センター

救急医療や最新機器整備

5月開院へ着々

（佐野太郎）

病棟最上の八階談話

ールと呼ばれる空間か

東遠地域で初の、がんの早期発見などに役立つ陽電子放射断層撮影装置（PET）など最新機器があった。新病院の特徴は、救急医療体制の強化。救急センターの担当医師は四人で、運用体制などを話している段階という。

四〜八階は病棟になる。三十三科・五百床の病室は四人居る。患者が寝ていて、患者が見えるよう大きな窓が施された。

室に立って北方向を望むと、掛川と袋井両市域が一望できた。眼下には駐車場やヘリポートなどがある。こんな広いのかあ。参加者から声が上がった。小笠山のふもと、北向きに三角柱の形をした病棟は、日当たりや冷暖房効率、眺望などを考慮して造られた。一階のホスピタルモ

「原則名前を呼ばず、診察前に必ず本人確認します」と担当者。診察室は採光窓が施され、明るい雰囲気だ。放射線部門には、中

病棟の心臓部」となる三階は、集中治療室（ICU）や手術センターなどがある。通廊に多回りハビリで臨んでいる。

新病院建設事務組合によると、全国初という市立病院同士の統合を成功させるため、現

内覧会は両日とも午前十時〜午後四時。



入院患者が寝ていても屋外が見られるよう、大きな窓が施された病室

放射線部門には、中

放射線部門には、中

放射線部門には、中

放射線部門には、中

放射線部門には、中